

プログラム取組の現状について

○京都大学、関西大学

気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材育成プログラム

気候変動下での レジリエントな社会発展を担う 国際インフラ人材育成プログラム

京都大学・関西大学

平成30年度 採択校連絡会

平成30年12月14日

於：京都大学

百周年時計台記念館国際交流ホールⅠ・Ⅱ

取り組みの現状

RSDCプログラム

学部生

① アセアン連携大学での集中講義を組み合わせた海外企業体験プログラム

- ASEAN諸国のインフラ整備現場での**インターンシップ**
- ASEAN連携大学でグループワークや集中講義

② 双方向短期留学プログラム

- 日本・ASEANの学生が日本・ASEAN両方の講義・実践を受講
- アクティブラーニングを中心とした実践科目
- 企業での体験活動やインフラ整備現場での**短期インターンシップ**

③ 双方向中長期派遣プログラム

- 個別研究プロジェクトを含む中長期派遣
- 国内研修旅行や**短期インターンシップ**による体験活動

④ 学位取得を見据えた協働学生指導プログラム

- 若手教員による出張講義を含む教育研究指導
- 学位論文の副査を相互に担当
- データ分析やインフラ整備現場の**体験活動**

⑤ 気候変動適応のためのウィンタースクール

- データ処理・解析技術とその気候変動適応への実践
- 若手教員の国際化支援
- データ分析やインフラ整備現場の**体験活動**

修士課程

博士課程

学生派遣・留学生受入れの実績

		H29 2017		H30 2018		H31 2019		2020	
		派遣	受入れ	派遣	受入れ	派遣	受入れ	派遣	受入れ
プログラム①	計画	6	-	6	-	6	-	6	-
	実績	6	-	6	-				
プログラム②	計画	12	12	12	18	12	18	12	18
	実績	16	23	23	22				
プログラム③	計画	3	3	3	3	3	3	3	3
	実績	3	3	3	3				
プログラム④・⑤	計画	-	3	-	4	-	4	-	4
	実績	-	4	-	5	-		-	
実績数の合計		25	30	32	30				

学部生を対象とした海外企業体験プログラム 《国際インターンシップ》

対象学生：工学部地球工学科国際コース所属の3年生の日本人学生

《国際コースとは》

外国人留学生と日本の学生が切磋琢磨する環境の中で
国際的に活躍できる高度な人材を養成する。

2011年開講。一学年に外国人留学生30名，日本人学生最大10名

海外のインフラ整備現場でのインターンシップ研修

+

RSDC修士課程学生を対象とした
双方向短期留学プログラム（フィールド・トリップ）

8月-9月の夏休み期間中，約2週間

アセアン連携大学での集中講義を組み合わせた 海外企業体験プログラムの実績

派遣先 年度	H29 2017	H30 2018	H31 2019	2020
カンボジア	1			
ベトナム	2	5		
ラオス	(1)	1		
ミャンマー	2			
タイ	1			
学生派遣計画	6	6	6	6
学生派遣実績	6	6		

【スケジュール】

教員による企業側への受入れ依頼：	前年度2月頃
学生の募集：	4月（科目登録時）
直前ガイダンス：	7月
（一部学生については企業本社にて説明会を別途実施）	
プログラム実施：	8月中旬～9月末の間の2週間程度
帰国後の報告会，企業との交流会：	11月

2017年度，2018年度 国際インターンシップ受入れ企業と現地サイト



東京外国語大学

日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・
カンボジア知日人材養成プログラム

プログラムの取組の現状について



グッドプラクティス

1. 3段階の交流プログラムと教育の質の保証
2. ミャンマー・ラオス・カンボジアの教育国際化
3. 日本発信力の強化



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

プログラムの取組の現状について

1. 3段階の交流プログラムにおける教育の質の保証

(1) - 1 短期Joint Education Program 【派遣】

「短期海外留学」科目として実施し、学生は履修登録の上、留学前・留学後教育を受講
 現地での学習・交流活動を踏まえ2単位を認定。

⇒各自の学習指針・目標の明確化

	ミャンマー	ラオス	カンボジア
平成28年	10名	9名	3名
平成29年	9名	9名	4名



【首都での国会議事堂見学】
2018ミャンマー短期派遣



【修了証を手に記念写真】
2016ラオス短期派遣



【集合写真】
2017カンボジア短期派遣

プログラムの取組の現状について

1. 3段階の交流プログラムにおける教育の質の保証

(1) - 2 短期Joint Education Program【受入】

各国別のプログラムを実施し、タンデム学習などの活動と成果を評価して参加証明書を発行。また留学生日本語教育センター「TUFS Short Stay Summer Program」に参加したラオスの学生には、修了証・成績証明書を発行。

⇒ 自主的な学習方法を通して日本を知る

	H28	H29	H30
ミャンマー	3名	5名	5名
ラオス	4名	5名	5名
カンボジア	6名	6名	6名



【協定校教員による講義】



【タンデム学習の様子】

プログラムの取組の現状について

1. 3段階の交流プログラムにおける教育の質の保証

(1) - 2 短期Joint Education Program 【受入】

【短期受入で高評価だったプログラムと留学生の感想】

ミャンマー	ラオス	カンボジア
<p data-bbox="359 611 843 661">川越・グリコ工業訪問</p> <p data-bbox="359 715 901 886">At Glico Factory, I have known about the history of the Glico Founder and also the reasons for why they are being successful.</p> 	<p data-bbox="963 611 1447 661">学校給食センター見学</p> <p data-bbox="963 715 1538 929">給食センターを見た時、ラオスにはこのようなセンターがないので、センターの衛生面に細心の注意を払って仕事をするシステムと最新の技術にとっても驚きました。</p> 	<p data-bbox="1569 611 2002 661">月島第二小学校訪問</p> <p data-bbox="1569 715 2145 929">踊りや影絵などカンボジアの文化を紹介しました。帰国後、カンボジアの小学校の教員研修で、日本の児童の礼儀正しさと積極性、校舎の清潔さについて発表しました。</p> 

プログラムの取組の現状について

1. 3段階の交流プログラムにおける教育の質の保証

(2) - 1 交換による長期留学【派遣】

派遣先大学において国文学、文化等の学科の正規授業を現地語で履修し、全員が単位を取得。本学はその内容を精査し、本学の単位14単位から31単位に認定。

⇒単位認定することで、4年で卒業が可能

⇒CEFR-J判定で語学力のレベルアップを確認

⇒卒論のテーマや進路の方向性の決定



	H28	H29	H30
ミャンマー	2名	3名 (協定数+1)	3名 (協定数+1)
ラオス	2名	3名 (協定数+1)	2名
カンボジア	2名	2名	3名 (協定数+1)

プログラムの取組の現状について

1. 3段階の交流プログラムにおける教育の質の保証

(2) - 2. 交換による長期留学【受入】

本学での履修を評価して25単位～30単位を授与し、帰国時に英文の成績証明書を付与。カンボジアとラオスでは単位互換を実施。

⇒卒論のテーマや進路の方向性の決定

⇒日本語能力試験N2合格により、日本語教員・日系企業への就職が可能



王立プノンペン大学からの受入留学生 (2017-18年)

	H28	H29	H30
ミャンマー	2名	3名 (協定数+1)	3名 (協定数+1)
ラオス	2名	3名 (協定数+1)	4名 (協定数+2)
カンボジア	2名	2名	3名 (協定数+1)

プログラムの取組の現状について

1. 3段階の交流プログラムにおける教育の質の保証

(2) - 2. 交換による長期留学【受入】

◆交換による長期受入学生のボランティア活動

⇒学外活動を通して日本を学ぶ



「小金井市立東小学校 国際交流授業」 <ミャンマー>

◆活動内容

自己紹介/各国のあいさつの言葉の紹介/小学生との伝言ゲーム
留学生からの各国の紹介/小学生と日本の昔あそび体験など

「府中市立若松小学校 国際交流授業」 <ラオス>

◆活動内容

歓迎会/和太鼓・琴の演奏、ダンス鑑賞
留学生からラオスの紹介（地理・文字・観光地・お祭りや食べ物など）



プログラムの取組の現状について

1. 3段階の交流プログラムにおける教育の質の保証 (2) - 3 留学生のための学習用教材の作成

受入学生の日本に関する知識を深めるため、本学留学生日本語教育センター刊行の『留学生のための日本史』の3国語翻訳版（ビルマ語・ラオス語・カンボジア語）を作成。日本及び3国の両学生が活用。

◆活用事例◆

カンボジア	ミャンマー
<p>短期Joint Education Program で、日本史の講義を実施。その後、学外研修で知識を確認。</p>	<p>プログラム実施前にGJOヤンゴンの日本語授業で使用。来日時に内容に関するプレゼンテーションを実施。</p>



プログラムの取組の現状について

1. 3段階の交流プログラムにおける教育の質の保証 (3) 大学院レベルの留学

【派遣】	H28	H29	H30
ミャンマー	1名	3名	2名
ラオス	0名	0名	2名
カンボジア	2名	1名	0名

【派遣】
修士論文研究の評価及び指導教員の授業の一環として評価。
また日本語教育分野の大学院生を派遣し、日本語教育を支援。



【受入】	H28	H29	H30
ミャンマー	0名	0名	0名
ラオス	0名	0名	1名
カンボジア	1名	0名	1名

【受入】
本学、国際日本専攻日本語教育リカレントコースにカンボジア王立プノンペン大学より学生を受入れ。高度な能力を持った日本語教育人材の育成に寄与。



プログラムの取組の現状について

1. 3段階の交流プログラムにおける教育の質の保証

(4) プログラム全体を通して

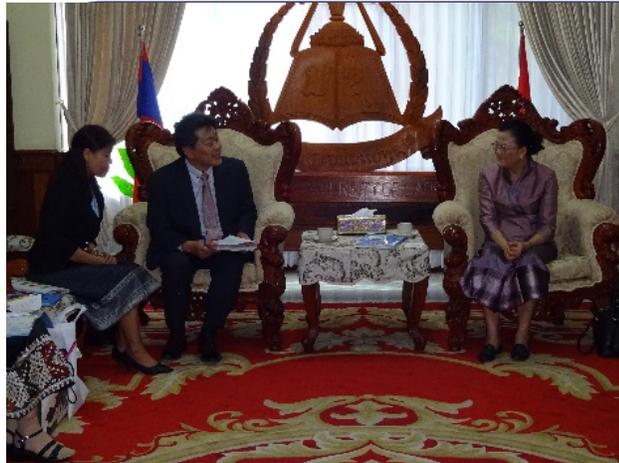


- ①協定校と常に協議し、各国のニーズに沿う交流を実施すると同時に双方で単位互換を実現
- ②個々の学生にあった細やかなバックアップ体制による着実なレベルアップ
- ③段階的、且つ継続的なプロセスによる教育・交流の実現により専門的な知日人材を養成

プログラムの取組の現状について

2. ミャンマー・ラオス・カンボジアの教育国際化への貢献

ヤンゴン大学（ミャンマー）、ラオス国立大学（ラオス）、王立プノンペン大学（カンボジア）の関係者と、数度にわたり、「ASEAN+3」の枠組みによる教育の国際化を協議



ラオス国立大学での協議
(2018年3月)

協議事項の具体例

- ・ シラバスの公開、授業時間の確認
→概ねの情報を入手
- ・ 単位互換
ラオス国立大学
→日本語学科との単位互換可能に
王立プノンペン大学
→単位のパッケージとして認定

これら活動の一環として、ミャンマー、ラオス、カンボジアの教育制度を調査し、その成果を本学Web上で公開

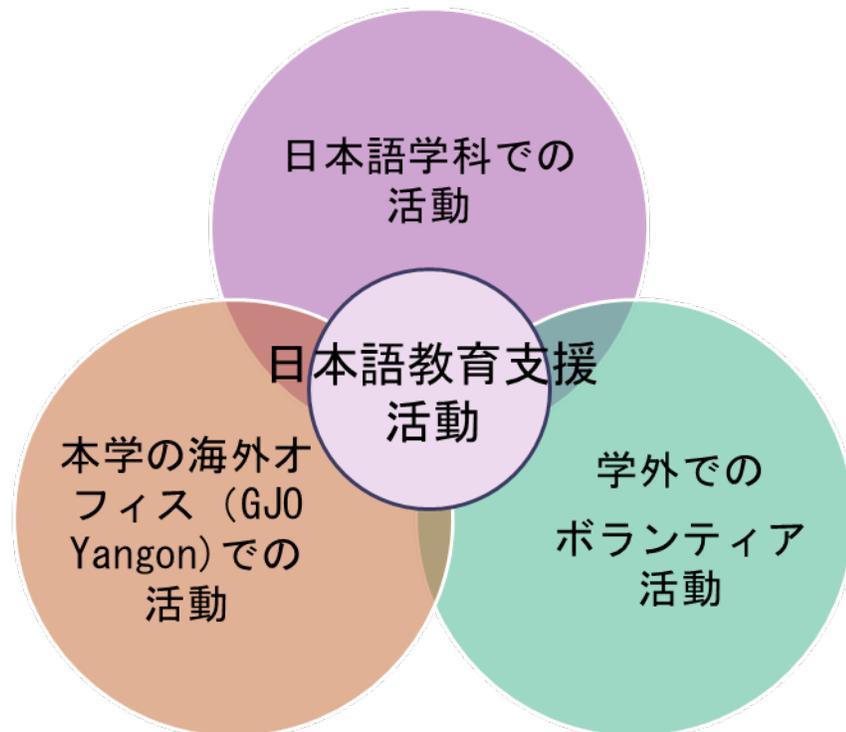


プログラムの取組の現状について

3. 日本発信力強化への取組の成果

(1) 本学留学生による日本語教育支援の拡大

- ・ 長期派遣される学部学生は、派遣前に日本語教育についての基礎知識を身につけ、派遣先大学において日本語を学ぶ学生に対する日本語教育のサポートを実施。
- ・ 大学院生は、国際交流基金大学連携日本語パートナーズ派遣プログラムでヤンゴン大学や王立プノンペン大学で活動。



ヤンゴン大学日本語教室 (本学学生による指導)

プログラムの取組の現状について

3. 日本発信力強化への取組の成果 (2) 日本に関するイベントへの協力活動

ミャンマーで開催された日本留学フェアに参加し、本学への留学について説明を実施。ブースでは本学教授、本学Global Japan Office講師が対応。入学に関する手続きや、入学後の日本語教育の状況、奨学金の受給可能性等の相談多数。



ラオス国立大学の派遣留学生2名が、現地で行われる日本語能力検定試験の試験監督補助、NUOL日本語学科の授業補助、在ラオス大使館と国際交流基金アジアセンター共催の「ジャパンフェア」における日本文化展示会場の設営や説明の補助などを実施。ラオスにおける日本語教育のサポートや日本文化の広報に貢献。



2020年東京パラリンピック・ラオス陸上競技団のホストタウンが福島県飯舘村になり、2018年10月22日ラオス関係者が本学へ来訪。本プログラムの交換留学生とラオス語版絵本の紹介やラオス衣装のセレクトや着用講習会を実施。



プログラムの取組の現状について

3. 日本発信力強化への取組の成果

(3) 派遣学生・受入学生の留学後について

【受入学生】

ラオス国立大学日本語学科任期付教員、王立プノンペン大学国際交流室員
公/私立学校の教員、国家公務員など
⇒日本文化、日本語教育にあたる教育人材を育成

【派遣学生】

JETRO職員、企業（メーカー）、ODAのプロジェクト
コーディネーター、現地日系企業等の民間企業への
就職
⇒現地や日本で両国の架け橋として活躍



東京藝術大学

日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション

～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

プログラムの取組の現状について

招聘

派遣

彫刻科×カンボジア王立芸術大学
(Royal University of Fine Arts)

美術学部彫刻科は、カンボジア王立芸術大学と連携して遺跡の修復現場における石彫実習、遺跡修復体験などを通じた交流プログラムを実施しています。

平成29年12月には、カンボジアの教員2名・学生3名を招聘し、本学にて日本の石彫に用いられる道具作りを行いました。その後、平成30年2月には、本学の教員3名・学生5名がアンコール遺跡を訪れ、先方大学の教員・学生と共に、遺跡に関するフィールドリサーチを行った他、日本政府アンコール遺跡救済チームらとも連携し、現地シェムリアップの石材を使用した石彫実習を実施しました。



派遣

楽理科×ミャンマー国立文化芸術大学
(National University of Arts and Culture)

音楽学部楽理科では、ミャンマー国立文化芸術大学と連携して、ミャンマーの民族音楽に関する調査・研究を実施しています。

平成29年12月、楽理科の教員3名・学生6名がヤンゴンを訪れ、ミャンマーの伝統楽器である打楽器アンサンブル「サインワイン」の演奏実習を行い、伝統楽曲の奏法を習得しました。さらに、音楽学の調査手法の共有を目的とした研究発表会を開催しました。



派遣

大学院国際芸術創造研究科×ラオス国立美術学校
(National Institute of Fine Arts)

大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻（キュレーション）は、ラオス国立美術学校と連携し、アニメーション制作プログラムを実施しています。

平成30年5月には、本学の教員2名・学生5名がラオスを訪れ、現地で人気のカフェを運営しながら映像作品をつくるアーティスト、地域のオルタナティブスペースにスタジオを構えるダンサー／俳優、映像表現を教える大学教員など7名にインタビューし、それをもとにラオスの知られざるアーティストの生き方をコマ撮りのアニメーションに仕上げました。



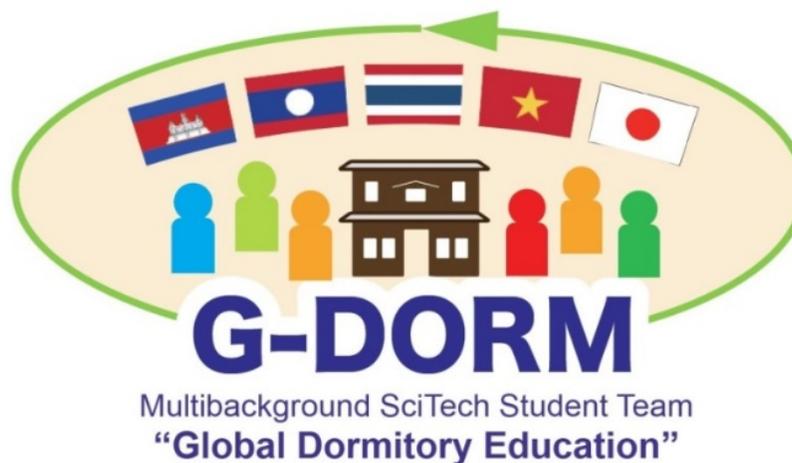
新潟大学

メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成



メコン諸国と連携した 地域協働・ドミトリー型融合教育による 理工系人材育成

プログラムの取組の現状(グッドプラクティス)について



王立ポンペン大学



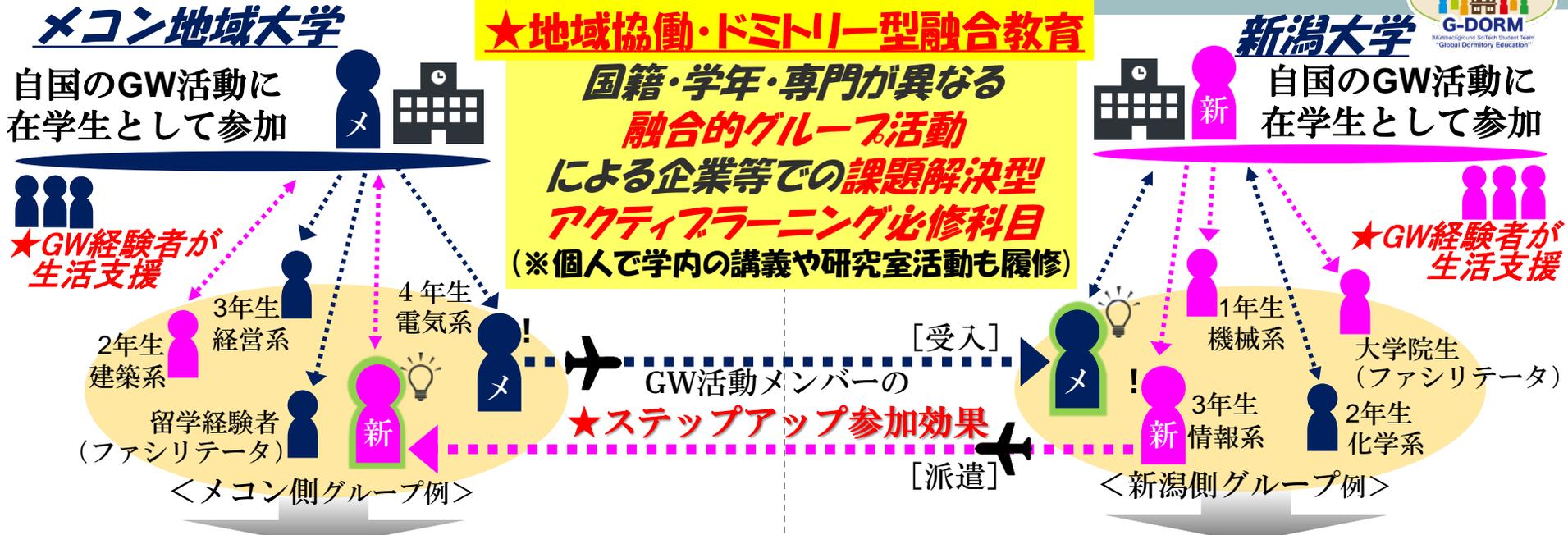
ラオス国立大学



チュラロンコン大学



ハノイ工科大学



新潟地域関連の日系企業 **新潟地域企業(自治体)**

★新潟地域関連企業と協働したグループワーク(GW)インターンシップ:必修科目
(新潟企業:メコン諸国の産業課題解決への知見はあるが、グローバル人材不足)

留学期間	短期(10日間程度)	中期(2ヵ月)	長期(6-12ヵ月)	+ 事前学習・週報・成果発表会・振り返り学習
学外実施期間	4日間程度	1ヶ月	2ヵ月	

実施地域	2016(トライアル)		2017		2018(実施予定数含む)		計 (実施予定数含む)
	メコン	新潟	メコン	新潟	メコン	新潟	
渡航学生数, 在學生数	2, 0	2+3, 3	15+2, 26	15+4, 22	20+1, 22	20+2, 21	74+12, 94
グループ数, 企業数	-	1, 1	10, 9	10, 16	11, 10	13, 16	45, 延べ52

★留学交流と地域振興



新潟大学の機能強化基本戦略

(2)「環東アジア」地域教育研究拠点形成と地域社会への還元システム構築

グローバル化を強化

地域還元活動を最大限に展開

地方公共団体や地域企業等との多数の連携協定

燕市と新潟大学との包括連携協定

新潟大学・工学力教育センター・国際教育部門・G-DORM

燕市



・社会変遷を乗り越えた金属加工技術の工業都市
・産業振興及び人口減少等の課題

短期受入と
中期受入の一部
を協働実施

(公社) つばめいと (商工会議所連携): つばめ産学協創スクエア事業

- 学生・事業者交流(インターンシップ等)で就労・産業振興
- 宿泊機能付きの研修施設「つばめ産学協創スクエア」



新しい地域振興活動として注目 (燕産業の理解⇒人材確保・将来の波及効果)

- 新聞報道(越後ジャーナル2017/8/24, 2018/8/22, 新潟日報2017/8/25)
- 燕市長の個人ブログ(2017/9/3, 2018/9/10)



★インターンシップ受入企業との発展的な関係強化活動

(学生と企業の双方にとって良いインターンシップのため！)

★振返りアンケート調査

★振返り意見交換会(アンケート回答資料を提示)

参加学生による自己評価コメントから人材育成計画の成果が得られていると高評価

- 自己常識を再考する柔軟な理解・許容力が身に着いた
- 仕事への責任だけでなく、社会や環境への責任を学んだ

＜企業側から指摘された主な成功点＞

★新たな価値創出につながるアイデア取得, ★スタッフの能力向上意欲の活性化,
★企業の認知度向上, ★人材採用戦略上の有用知見

- 単に知識・学力・語学力だけではなく、調整力・忍耐力・創意工夫等の**職場の中心職員に求められる資質**を備えることができ、このような学生は是非とも採用したい。
- 就職に直結せずとも、**企業活動の理解者が多様な地域で増える**ことで、**様々な波及効果**が期待される。

＜企業側から指摘された主な課題＞

★学生ニーズと課題設定内容との整合性, ★学生の能力に応じた指導

★企業・大学・学生間の情報共有活動の継続的深化の重要性が再確認された。(振返り意見交換会の継続開催)



★国際グループワーク(GW)インターンシップの構成概要



「課題テーマ」と「学生の自己評価(留学前後での最も重大な変化)」: H29年度中・長期の事例 (企業のグローバル課題に実践的グループ活動で取り組み, 課題解決能力を育む)	
〈派遣〉メコン諸国の新潟地域関連日系企業	
新潟大生 (メンバー:チュラロンコン大1名)	新潟大生 (メンバー:王立プノンペン大2名)
<p>「タイにおける新しい表面処理事業の提案」, 作業分担・情報共有・自己主張の重要性を学び問題解決能力を養えた。</p> 	<p>「カンボジアでの過積載車両の実態調査」, 仲間の考えを汲み取り, 臨機応変に計画する柔軟性が身についた。</p> 
〈受入〉新潟地域企業	
ハノイ工科大生 (メンバー:新潟大2名)	王立プノンペン大生 (メンバー:新潟大1名, ラオス国立大1名)
<p>「調理用品部門のアジア展開戦略の提案」, 仕事に対する態度から, 行動時の規律と責任を学んだ。</p>  <p>「(公社)つばめいと」も協働</p>	<p>「水質・浄水処理に関する課題と解決」, 迅速で前向きな行動力を発揮できるようになった。</p> 



★H30年度短期受入プログラム(8/18-28)の事例 (※中・長期の一部の学生の相乗り)

4 Universities in Mekong

- [Cambodia] 4 students **Royal Univ. of Phnom Penh**
- [Laos] 4 students **National Univ. of Laos**
- [Thailand] 2 students **Chulalongkorn Univ.**
- [Vietnam] 6 students **Hanoi Univ. of Sci. and Tech.**

Niigata Univ. in Japan

19 students

燕市の(公社)つばめいと及び燕地域企業8社と協働の
課題解決型国際グループワークインターンシップ

地域振興活動として注目(越後ジャーナル2018/8/22, 燕市長個人ブログ2018/9/10)

グループワークにより, 事前学習発表, 学外活動インターンシップ(4日間), フォーラムでの成果発表と質疑応答, 振返りワークショップなど

学生の自己評価(留学前後での最も重大な変化): **産業理解, 互いの専攻分野の把握と活用, アイデアの共有力, 課題解決力, リーダシップ, 時間内での達成力, 異文化コミュニケーション力**



各大学の国際連携運営委員会委員や企業関係者も参加したフォーラム

名古屋大学

ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトイン
フラ基礎人材」育成プログラム

大学の世界展開力強化事業
H28採択 アジア諸国
プログラムの取り組みの状況

名古屋大学

総長補佐 大学院経済学研究科・准教授

土井康裕（本事業 実施委員長）

本事業の交流プログラム

- ・ 全て計画通り実施することができている：
 - 派遣：カンボジア、ベトナム、ラオス、ミャンマー、シンガポールへ
 - 受入：同5カ国から、5つの短期プログラムと長期プログラム
 - ・ 各プログラムでは、地域の企業や公的機関と連携し、
 - 体験型の教育を提供
 - 学識を実践できる能力を育成
 - グローバル人材としてのコミュニケーション能力の訓練を実施
- ⇒ **ビジネスプラクティスワークショップ**

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	59	105
学生の受入	41	74

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・ 学内での説明会開催などを通し、より多くの学生への広報を充実
- ・ 説明会には多くの学生が参加し、短期または長期の留学を希望
- ・ 日本人学生間でASEAN諸国に対する関心が高まる
- ・ 大規模派遣：カンボジア派遣39名、ベトナム派遣26名（H29）

○ 外国人留学生の受入

- ・ 受入プログラムは加盟校で非常に高く評価されている
- ・ 本プログラムに参加を希望する学生が増加
- ・ 企業や地域行政等の協力の下で行う現地調査や課外研修が加盟校学生の興味



• 地元企業との連携事業

⇒ビジネスプラクティスワークショップ

- (実施体制) 名古屋大学、愛知県、JETRO名古屋
- (対象) 海外展開を準備している地元企業
- (参加学生) 海外派遣予定の日本人学生、短期・長期の受け入れ留学生
- (目的) 学生の調査・議論を通じた国際コンサルティング
- (内容) 国内外での工場見学やフィールドワークと企業担当者を含めた議論

地元企業 ⇒ 海外展開への課題(市場調査、販売戦略 等)

大学 ⇒ 留学生と日本人がグループワーク ⇒ 提案

• 「ビジネスプラクティスワークショップ」

企業の担当者と留学生、日本人学生と一緒に議論
(効果)

- (日本人学生) 海外についての課題に接する機会
- (日本人学生) 英語で外国人と議論
- (留学生) 日本企業の文化を体感
- (留学生) 自身の知識や能力を活かす経験
- (地元企業) 見えなかった海外での課題を留学生から理解する
- (地元企業) 外国人の能力を知る機会 ⇒ 雇用への試金石



これまでの参加企業一覧：

三井物産(中部支社)、ポッカサッポロ、
Como、瀧川オブラート、Hoyu、UL、
中部国際空港、Dynapac、Solaris Hope、C-ENG、
イケックス工業、デルタ航空

テーマ：

アセアン市場への参入可能性、アセアンの市場調査・現地でのインタビュー調査、海外で受け入れられる商品開発 等





ビジネスプラクティスワークショップの成果:

- 現地の特性を理解した実践的なマーケティング
- 進出希望先(国、地域)の文化背景や価値観の理解
- 留学生ならではの着眼点や発想への期待

⇒ 昨年12月の提案が具体的に商品化

○広島大学、広島経済大学

CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献
する研究力と社会起業力の融合人財育成

CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する 研究力と社会企業力の融合人財育成プログラム

海外提携大学

ミャンマー連邦共和国

- ヤンゴン大学
- ヤンゴン歯科医学大学
- ミエック大学

ベトナム社会主義共和国

- 国家大学ハノイ校自然科学大学
- 国家大学ハノイ校人文社会科学大学
- 国家大学ホーチミン市校自然科学大学
- 国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学
- ホーチミン医科薬科大学
- 国家大学ホーチミン市校工科大学
- ベトナム交通運輸大学
- 貿易大学

ラオス人民民主共和国

- ラオス国立大学

カンボジア王国

- 王立プノンペン大学
- カンボジア国立健康科学大学

タイ王国

- カセサート大学

国内連携大学

- 広島経済大学

広島経済大学
Hiroshima University of Economics

専門教育・研究

国連の掲げるSDGsを以下の5つの領域に分け、関連専門教育を提供しています。

医療

食

環境

資源

生命インフラ

食品生産技術、生物資源学、口腔保健学

持続的発展インフラ

環境科学、土木工学、生態学

教育

雇用

人材教育インフラ

教育政策、カリキュラム開発、STEM教育

伝統・尊厳インフラ

言語学、日本文化研究、地域研究、文化人類学、人と環境学

国際経済

国際経営

経済発展インフラ

理論経済学、応用経済学、国際金融論、国際経営論

Good Practice (I): BEVIを用いた留学の効果測定



個人の信条・価値観を理解するための 心理アセスメント・ツール

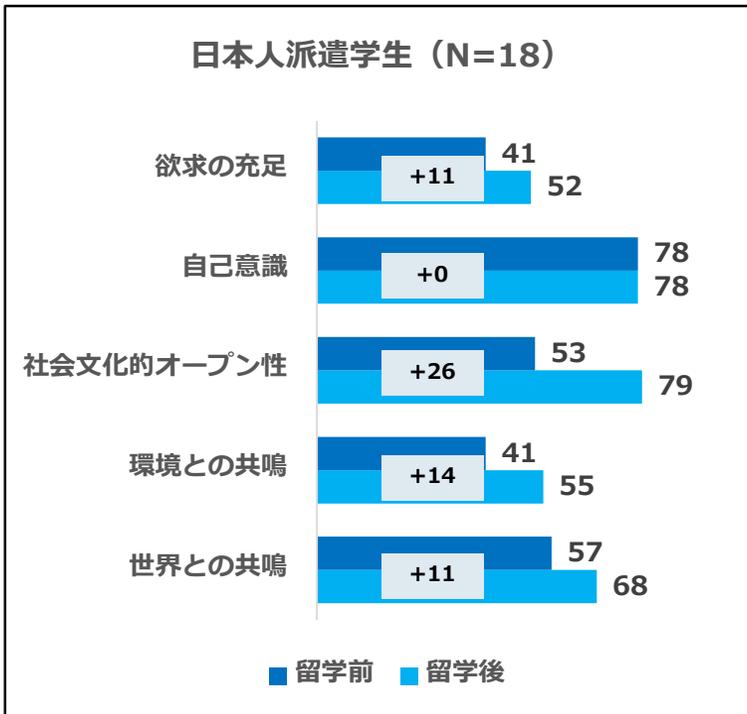
心理測定学に基づき、1990年代初頭に米国で開発開始。以後関連する実証的・理論的知見を踏まえて、多様な専門家（心理学者、教育者、多文化教育の専門家等）が分析、検討、改訂、研究を継続して行っている。広島大学が日本語版(BEVI-j)を作成。オンラインで実施。30～60分程度で回答完了できる（スマートフォンでも受験可）

プログラム実施者へのメリット

- ・ 成果報告書の作成やプログラム評価に役立つ
- ・ BEVIレポートを利用した教育への応用も可能

BEVI回答学生へのメリット

- ・ 個人レポートによる自己の振り返りが可能





Beliefs, Events, and Values Inventory

あなたとあなたの世界観:

Beliefs, Events, and Values Inventory (BEVI)™ の個人レポート

—ト

User: @hiroshima-u.ac.jp Date of Test:

Beliefs, Events, and Values Inventory (BEVI)は、1990年代初めの開発開始以来、人々が、自分自身、他者また世界一般について持っている信条や価値観がどのようなものなのか、またそうした信条や価値観がどのように学習、個人的成長、人間関係、集団や組織との関わりそして人生の目標の追及に影響を与える可能性があるのか、について理解をより深める補助をすることを目的としています。

このレポートの情報は、あなた個人についてのもので、あなたが、自分自身、他者そして広い世界をどのように認識しているかについての情報が含まれています。BEVIは、決して、あなたの記入した回答が「正しい」「間違っている」、

Good Practice (II): アイデアマイニングを通じた社会企業力の育成

×

創造力を高めつつ、問題の解決法を探る アイデアマイニングワークショップ

ミュンスター大学 (WWU) が開発したIdeas Miningを応用した問題解決型ワークショップ。広島大学及び広島経済大学の教員がWWUによるファシリテーター養成研修を受講し、2018年より国内で実施開始。様々なテーマ・参加者で実施可能。



Ice Breaker



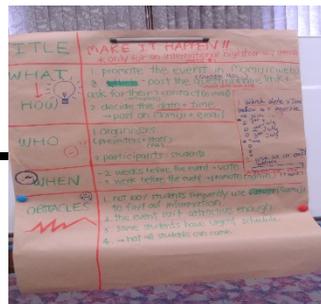
Mind Opener



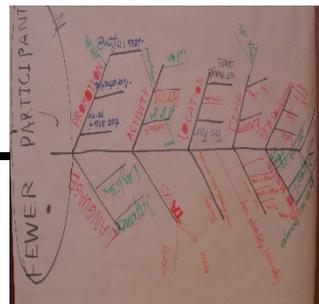
Brainstorming



Presentation



Action Plan



Categorization
& Selection



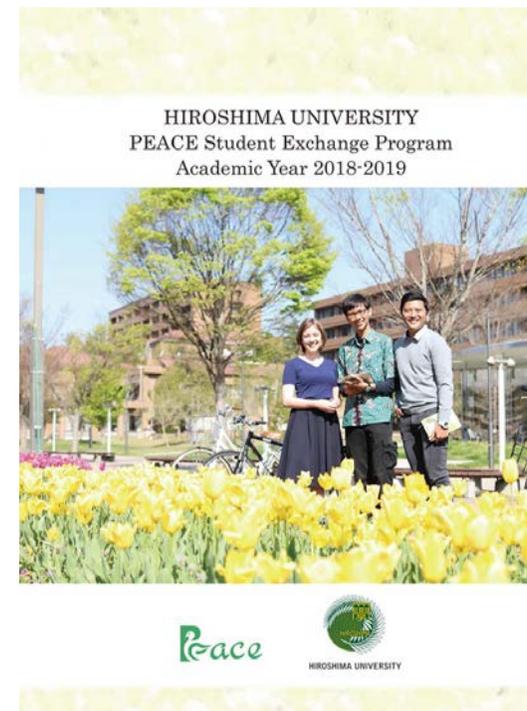
2018年11月17日に実施。テーマは「気候変動」。
(持続可能な開発目標13)

Information Package及びプログラム公式ウェブサイト

【Information Package】

- 留学を希望する留学生を対象に作成
- プログラムの教育目標及び履修できる授業科目一覧だけでなく、大学の基本情報や宿舎や生活面に関する必要情報を一元的にまとめた冊子

※Information Package については、
以下又は右から電子版を閲覧可
<http://peace-program.hiroshima-u.ac.jp/en/info-package/>



【PEACE学生交流プログラム 公式ウェブサイト】

- セミナー開催情報や、留学生の声を随時掲載

日本語版 <http://peace-program.hiroshima-u.ac.jp/>
英語版 <http://peace-program.hiroshima-u.ac.jp/en/>



明治大学

CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造

プログラムの取組の現状について

- **事業の目的**

日本の過去の教訓を踏まえた「先進的なアジア型の将来都市構想」と、これを実現する「共創的教育システム」を創造すること

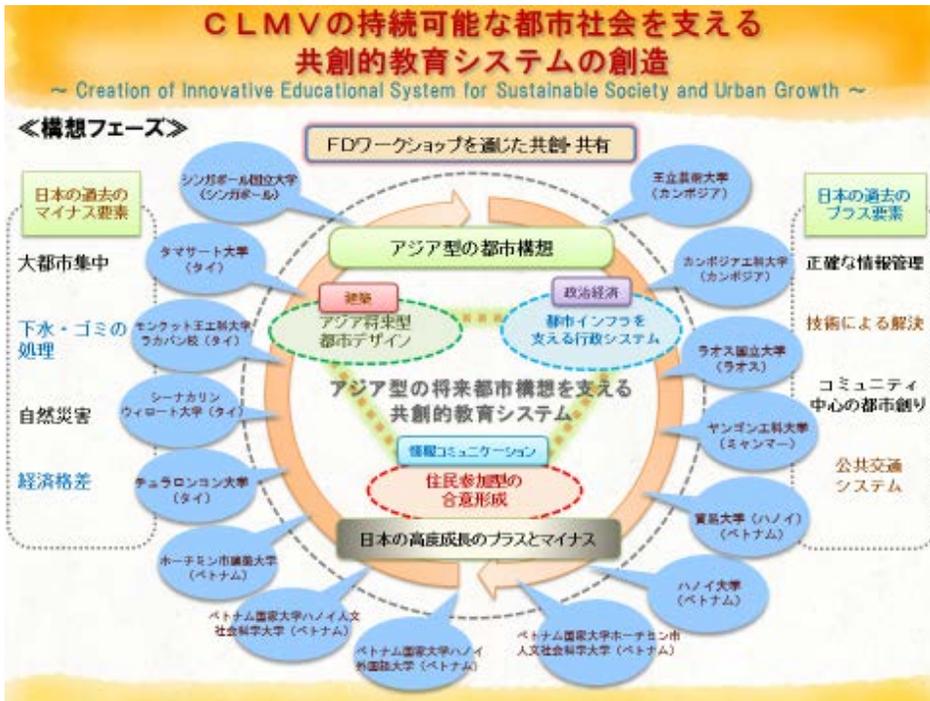
- **三つの取組部局**

政治経済学部、情報コミュニケーション学部、理工学部建築学科及び建築・都市学専攻

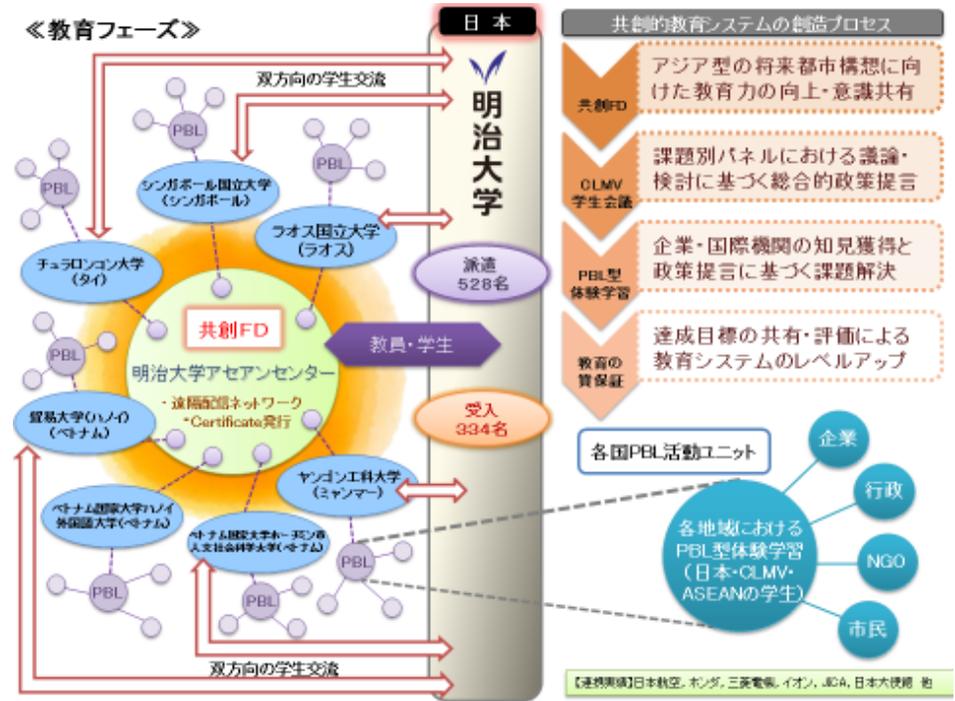
プログラムの取組の現状について

二つのフェーズ

- ✓ ASEAN・CLMV連携大学との協働で生み出す「構想フェーズ」
- ✓ 「先端的なFD」と「PBL型体験学習」を通じてCLMV連携大学の教育カリキュラムに実体化してゆく「教育フェーズ」



<構想フェーズ>



<教育フェーズ>

プログラムの取組の現状について

実施プログラム1 「共創FDワークショップ」及び「CLMV学生会議」

- 本学学生と教員，CLMV諸国及びタイを中心とした交流先大学の学生と教員を明治大学アセアンセンター（バンコク）に招聘
- 各国が抱える都市化に伴う問題点や課題を共有し，解決へ向けた提言を目指す「共創FDワークショップ」、「CLMV学生会議」を毎年実施
- 同時に，PBL型体験学習としてフィールドワークを実施
- 2018年度：明治大学学生・教員52名，タイ及びCLMV学生・教員27名が参加。駐タイ日本大使館，UNESCAPよりスピーチ



共創FDワークショップの様子



Wrap up セッション



プログラム終了後集合写真

プログラムの取組の現状について

実施プログラム2 「明治大学アカデミックフェス」

- 学問分野や領域を越えた共創的研究の促進と発信を目的とした本フェスで、【Fly to the World（世界展開力報告）】と題するセッションを実施（2017年より11月23日開催）
- 各取組部局が進めてきた取組やプログラム及び「CLMV学生会議」について、プログラム参加学生が英語で報告
- 学内外の研究者・学生が多く参加。学生が実体験からの主体的な学びや研究報告のプレゼンテーションを行い、様々な学部の教員が質疑・コメントをすることで、異なる分野から建設的に意見交換



学生報告の様子

プログラムの取組の現状について

実施プログラム3 「アセアン学生交流プログラム」

- タイとラオス及びベトナムの対象大学と学部生の短期相互派遣プログラム
- ベトナム人学生の短期受け入れプログラムでは、平成28年度・富山県立山町のコンペティション大会で最優秀賞を獲得した外国人文化体験ツアー・プログラムを、平成29年度以降、街の施策として実施
- 北日本新聞や富山新聞など各種メディアで紹介された



富山県立山町での文化体験



日本文化特別講義の様子



修了式の様子

プログラムの取組の現状について

実施プログラム4

国内型PBL「東京湾岸エリア都市模型及び大手町・丸の内・有楽町エリア（大丸有エリア）視察」

- 交流先大学からの留学生を主な対象としつつ、対象プログラム参加の本学学生も参加可能とし交流できるようにアレンジ
- UR都市機構の東京湾岸エリア都市模型を見学、東京エリアの都市開発と再開発の歴史を学び、ディスカッション
- 三菱地所・三菱地所設計を訪問、大丸有エリア及び周辺エリアの再開発プロジェクトに関するプレゼンを受講
- 大丸有エリアを見学しながら、ディスカッション



都市模型を前にディスカッション



大丸有エリアの見学

慶應義塾大学

LL.M.を用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム (PAGLEP) の形成

プログラムの取組の現状について

- ・ プログラム開始から3年経過。年々参加者数は増加している（表1参照）
- ・ 短期プログラムは、ベトナム（ハノイ・ホーチミン）、カンボジア、タイの3カ国4地域で実施し、2018年度春プログラムはラオスで開催する予定である。提携大学との学問的・人的交流も深まっている。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
派遣	16	20	21（予定）
受入	1	20	27

表1 年度別留学生派遣・受入実績

（慶應グローバル法研究所（KEIGLAD）<http://keiglad.keio.ac.jp/information/>）を元に作成。）

プログラムの取組の現状について

好取組事例（グッドプラクティス）

ギャップタームを活用した法科大学院生の派遣

在学中は、司法試験に向けた学修が中心になってしまう法科大学院生の留学機会を増やすために、司法試験終了から合格発表までの期間に留学ができるよう、留学プログラム「ギャップタームプログラム」を設置した。

実施内容

従来から修了生も履修ができる「リサーチペーパー」を活用する。

参加者は、それぞれの興味関心に応じて、現地受入大学の授業の履修や現地法律事務所でのインターンシップ、現地でのフィールド調査などを行い、リサーチペーパーを執筆する。

派遣期間は7月から9月（1か月から2か月強）の中期間。

応募から選考まで

司法試験終了後の5月中旬に説明会を設け、参加希望者は履歴書、学習計画、語学スコアを提出し、選考する。

平成30年度は5月中旬に説明会を行い、修了生8名が参加した。その中から4名の応募があり、ベトナム（ハノイ・ホーチミン）、カンボジア、タイの3カ国4地域に派遣した。

渡航に当たって、各国それぞれ担当教職員が現地受入大学とビザや受入体制（科目の履修や住居）について確認および交渉を行い、学生の渡航準備の補助をした。

プログラムの取組の現状について

好取組事例（グッドプラクティス）

ギャップタームを利用した法科大学院生の派遣

成績評価

ギャップタームプログラム参加者は、慶應義塾大学法務研究科の科目履修生として登録され、事前に提出した学習計画に従って、現地でインターンシップや授業の履修をし、リサーチペーパーを執筆する。

提出されたりサーチペーパーを元に、教員2名が口頭審査を実施し、合否判定を行う。合格者には「リサーチペーパー」として1単位が付与される。

提出されたりサーチペーパーは、学内の図書館での公開される。また、執筆者の許可があった場合「慶應義塾大学学術情報リポジトリ（KOARA）」においてオンライン公開もされる。

成果

- ・これまで実施した短期プログラムの参加者が応募する傾向にあった。
→短期プログラム参加を通じて、途上国における法制度に関する問題意識が高まり、中期の留学へつながっている。
- ・比較的長い派遣期間のため、受入大学の学生との間で良好な人的関係が築かれ、帰国後も継続している。
例：カンボジアに派遣した学生は、受入大学の学生が日本に留学した際、自主的に空港まで迎えに行く、日本での生活立ち上げの補助を行っている。
- ・リサーチペーパーは日本語で執筆できるが、派遣者のうち2名は自発的に英語で提出をした。
→留学成果を「受入先と共有したい」という意識の表れ。英語により、論文を書くことは、法律問題を国内外に発信する能力の強化につながる。

プログラムの取組の現状について

好取組事例（グッドプラクティス）

留学生学位取得プログラム

本学では、単位取得型留学のみならず、学位取得型の留学にも力を入れている。
平成30年3月および9月に、留学生が3名LL. M. の学位を取得し、修了した。

実施内容

KLS LL. M. コースに正規生として入学し、1年間で卒業単位30単位または36単位を取得で修了する、修了者には、LL. M. の学位が授与される。

また、平成30年度より、専門認証（ビジネス法、国際仲裁および日本法）を開始し、各認証ごとの指定科目単位数を満たしていた場合、専門認証が行われる。

応募および選考

希望者は、5月および12月に実施されるKLS LL. M. コースの入学試験を受験し、合格した場合、入学が許可される。

2019年以降、本プログラム連携大学からの留学生に対しては、別途推薦入試が行われることとなった。推薦入試の枠組みに基づく入学は、2019年9月から開始予定である。

成績評価

KLS LL. M. コースの成績評価に準拠し、行われる。

成果

- ・学位を取得することで、帰国後の母国でのキャリアパスが広がる。修了生は、出身国の日系企業、日系法律事務所、渉外系法律事務所への就職を検討している。
- ・本プログラム参加学生の授業内での貢献度や評価は高く、修了生全体の中でも比較的上位の成績で修了している。

プログラムの取組の現状について

好取組事例（グッドプラクティス）

日本人向け短期派遣プログラムと留学生向け短期プログラムの同時開催

平成29年度は留学生向けの短期プログラムと日本人学生向けの短期派遣プログラムは別々に実施していたが、以下のような課題があった。

- 1 連携校の多くは日本入国に際しビザが必要だが、その手続きに時間がかかる。
- 2 日本での開催には費用がかかり、大学および学生双方にとって経済的負担が大きい。
- 3 日本人学生と留学生の交流が十分に図られなかった。
- 4 プログラムで取り扱われる法律内容が日本と受入大学の法律という二国間に限定されてしまう。より一層、比較法学的観点から学修を深める必要があった。
- 5 プログラムに参加する教職員の幅を広げる必要があった。

そこで、平成30年度は、これまで別々に実施していたプログラムを同時開催した。

実施内容

連携大学全てがビザなしで渡航できるハノイ法科大学（ハノイ，ベトナム）において開催した。

連携大学の教員がそれぞれ自国法の法制度および現在起きている法律問題について講義を行い、比較法的な観点からの学修の充実化を図った。

参加学生に対しては、不法行為を題材にした共通の法律問題を事前課題として課し、自国法を適用した場合の問題解決についてプレゼンテーションを実施した。

プログラムの取組の現状について

好取組事例（グッドプラクティス）

日本人向け短期派遣プログラムと留学生向け短期プログラムの同時開催

応募から選考まで

- ・各国参加者に対しては、現地担当教職員に対して案内を行い、候補者の選考および推薦を依頼した。推薦された学生を参加者として受け入れた。
- ・日本人参加者に対しては、志望理由書の提出を求め、担当教員が選考を行った。日本人参加学生は「エクスターンシップ（海外）」の履修者として登録されている。

成績評価について

- ・プログラム参加者全員に対して、プログラム全日程への参加、授業への主体的な参加、プレゼンテーションの実施を求めた。参加者全員に対して、プログラム修了書を発行した。各国からの参加者に対する単位の付与は派遣元大学の判断に委ねている。
- ・日本人参加学生は、「エクスターンシップ（海外）」の単位取得要件として、帰国後報告書の提出が義務づけられている。提出された報告書に基づき、担当教員が合否を判断する。合格した場合、1単位が付与される。

成果

- ・ベトナム、カンボジア、タイ、ラオス、日本からの参加学生全ての間で充実した交流が図られた。
- ・各大学から教員および職員が参加したことで、教職員間の交流も充実した。とりわけ、教員間ではそれぞれの国の授業法や内容について情報共有をする機会にもなった。